

連載 16

住み替えを 選んだ人のその後

栗原道子

利用する「通過型グループホーム」(東京都港区)を16年4月から運営している。生きづらさを抱える、精神障がいのある人たちの生活や就労を支えている。

通過型グループホームは利用期間は2～3年程度を限度として、個々に自立目標を持つ精神障がいをもつ人へ、する障がい者施設。安心でき環境で自立を目指す場であ

A close-up photograph of a bouquet of flowers, including red carnations, yellow roses, and purple hydrangeas, arranged in a clear glass vase.

「アプローズ南青山」が販売する花かご話。ともに支援に関わっている医師や訪問看護師、主治医との連絡を密になり、患者さんが安定して暮らせるように心配りをする毎日だ。マンションのロビーフロアには、食堂や調理場、応接間などがある。お風呂は居室のあるフロアに設置されている。

支援を組み合わせて行っている。現在は一般企業に就労している障がい者年金や生を受けながら暮らしている中で、大きい家賃補助があり、個別負担が1万円である。西原さんは、「精神は、回復できる病気気と向き合い、医療支援を受けながら生きつけ、資格をとつて会復帰をする」とほ

た支援も3人が一
る。活保護をいる人もほ港区のほ港区の家賃こと。
神障がいです。病や福祉のきがいを女性の熱意から生まれ、大き
たり、社く美を結びつつある障がい者
十分可能支援の活動だ。

ズは今年5月に、大田区でも新たに通過型グループホームを開設した。

同法人代表の光枝栄莉子さんは、かつて東京都福祉保健局で8年間働いていた。退職してフリーランジメントを就労支援と結びつけた「ア

精神障がいもつ人の生活と社会復帰支える

通過型グループホーム「アプローズHouse」

都内で、障がい者がフランク・アレンジメントの技術を学びながら働ける場「アプローチズ南青山」（就労継続支援B型事業所、2014年4月開設）を運営するアプローチズ（光枝茉莉子社長）は、そうした事業所などで働く人が

A photograph of a woman with dark hair, smiling and sitting on a couch. She is wearing a light-colored, short-sleeved blouse. The background shows a room with a bookshelf and some furniture.

の居室に暮らしている。利用者はここから仕事に行き、デイケアに通う人、「アプローズ南青山」などの作業所に行く人もいる。

管理者の西原由紀さんは、サービス管理責任者や精神保健福祉士、産業カウンセラー、公認心理士の有資格者で、入寮者のお母さんのような雰囲気。西原さんは「人間たれしもあることですが、精神障がいの症状により、意思疎通が難しくなる時があり、誤解がない」とあります。

◇

ここで生活して就労につながり、倉庫のライン作業や務の仕事に就いた人がいる。また以前からアプローズ南青山と連携をとり、通所と生活をそれぞれ3人で共同する。平日の食事は食堂で職員が手作りし、提供してくれますが、今後の自立に備えて、今日は自炊をする日としている。西原さんは料理が得意である。その料理が「ミニユニケーション」役を果たすこともあるという。

いよいよ、いよいよ、土貢事な青活で、障がい者に寄り添って生活面を支え、障がい者自身が自分で歩く力を自ら養い、社会で生きられるように手助けと見守りをしている通過型グループホームだ。アプローチです。

A black and white photograph of a room with large windows overlooking a city skyline. The room contains a dining table and chairs, and a small clock is visible on the wall.

5階にある食堂兼リビング（「アプローズHouse 南麻布」のブログより）



利用者の支援に携わる
西原由紀さん

「口ナ禪」